

現代ビジネス学部国際社会学科

●入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代ビジネス学部国際社会学科は、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

【知識・技能】

- ①高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- ②高等学校までの「国語総合（現代文）」や「英語」の履修を通じて、基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。

【思考・判断・表現】

- ③現代社会の問題について、知識や情報をもとに筋道立てて考え、その内容をわかりやすく表現できる。

【主体性・協働して学ぶ態度】

- ④クラブ活動、委員会活動や社会奉仕等を通じて、多様な人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
- ⑤国際社会科学や異文化理解の知識及び学内外での様々な体験を社会で活かしたいという目的意識と意欲がある。

●教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代ビジネス学部国際社会学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような教育内容、教育方法、教育評価に基づき、教育課程を体系的に編成します。

<教育内容>

(1) 共通教育科目では、教養教育を担うため全学部共通で設定しており、大学での学修の基礎となる知識やスキル、そして豊かな人間性と高い教養を身につけるべく基幹教育科目群（基礎科目、外国語科目）、教養教育科目群に区分する。

- ①学修の基礎となる知識やスキルの修得のため「入門セミナー1」、「入門セミナー2」を必修として、また「アカデミックスキル（思考）」、「アカデミックスキル（表現）」を配置する。**【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】**

- ②外国語運用能力の修得、特に英語の運用能力の修得のため、「英語1A」、「英語1B」、「英語2A」、「英語2B」を必修として配置する。その他にも英語・ドイツ語・韓国語・中国語・インドネシア語の科目を配置する。**【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】**

- ③豊かな人間性と高い教養を身につけるべく教養教育科目群において、人文・社会・自然の各領域の科目を配置する。また、地域に根差した人材育成のため「地域連携」に関わる科目を配置する。**【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】**

- ④キャリア意識をそだてるために、「キャリアデザイン」を必修として、「インターンシップ」、「インターンシップ事前事後指導」等の科目を配置する。**【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】**

- ⑤高度情報化社会の中で活躍できる人材として必要な情報リテラシーや基本的な能力の修得のため、「情報処理演習」、「アカデミックスキル（情報リテラシーと調査）」、「データサイエンス」、「数学と社会」の各科目を配置する。**【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】**

(2) 専門教育科目では、基礎科目群、基幹科目群、コース科目群、関連科目群、演習群の5つに科目群区分する。

- ①基礎科目群は、グローバル社会における諸問題について、人文・社会科学のさまざまな視点から考える「グ

ローバル・スタディーズ入門」を必修として配置する。また、PBL型の教育により地域の諸課題の解決方を学生に考えさせることで課題発見力、プレゼンテーション能力、課題へのアプローチ方法、実践力等を身につけるべく、「プラン&プラクティクス」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】

②基幹科目群は、英語運用能力の向上と英語情報を用いて学ぶ思考力と技術を養うために「Topic Based English 1」を必修科目として配置する。また、「国際社会入門1・2」を学科の必修科目として配置する。さらに国際社会を理解するために「国際経済学」、「グローバル化時代と国際関係」、「異文化コミュニケーション論」等を配置し、国際社会科学の各学問領域における専門的基礎知識を体系的に修得する。【知識・理解、思考・判断】

③コース科目群は、国際社会の具体的な問題解決を行い、各学問領域における専門知識を現場で応用できるよう、各コースで必要とされる専門科目を必修化し、それに関連する科目を学問系列ごとに分けて3つのコース科目として配置する。学生は3つのコース「英語コース」、「ハングルコース」、「国際コース」のいずれかに所属する。なお、所属のコース科目で生まれた新たな関心・意欲に応え、幅広い学問領域における専門知識を体系的に修得するため、他のコース科目の履修を推奨する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度】

④関連科目群は、コミュニケーションスキルを養うための科目等を配置する。【知識・理解、技能・表現】

⑤演習群は、それまで修得できた知識やスキルを統合するとともにコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、課題発見力、課題解決力等を養成するため、必修科目として「専門演習Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学修の集大成として「卒業研究」を配置する。【知識・理解、思考・判断、関心・意欲・態度、技能・表現】

<教育方法>

①アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を少人数科目では必ず用い、多人数科目においても原則として取り入れる。

②教養や知識を修得させるために、課題等の内容や時期を適切に行う。また、学修効果を高め適切な評価のため、中間レポートや小テスト等を通じて、学期中のフィードバックを行う。

<教育評価>

①卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況を把握し、評価する。

②自己の学修成果の振り返りと学生生活の自己管理のために、学生はアセスメントのシステムを用い「学修ポートフォリオ」を作成する。

③基礎学力レベルを測るための汎用的なテストを実施し、その結果を検証することにより、各個人に応じた適切な学修指導を行う。

●卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

現代ビジネス学部国際社会学科は、卒業に必要な単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、次の能力を備えていると判断した場合に、「学士（国際社会科学）」の学位を授与します。

【知識・理解】

①人文社会自然科学を基礎とした幅広い教養を身につけている。

②国際社会科学や異文化理解の専門的知識及びその活用方法を身につけている。

【思考・判断】

③ローカルな視点とグローバルな視点を併せ持ち、現代の経済、社会、文化について論理的に考えて分析し

考察することができる。

④現代社会の多様なフィールドにおける諸課題の解決に向けて、的確な学際的考察及び総合的判断ができる。

【関心・意欲・態度】

⑤現代社会の諸課題に対して自ら積極的に関心をもち続け、現代社会に貢献することができる。

⑥自ら課題を探求し、他者と協力しながら自律的、主体的に課題を解決するための意欲と職業的自律を図るための態度を身につけている。

【技能・表現】

⑦外国語で書かれた資料や書類を理解し、必要な情報を的確に読み取り討論や意見交換を行うことができる。

⑧国際コミュニケーションの手段として必要な、英語や韓国語を中心とした国際対話能力を身につけている。